

近江輿地誌略

高嶋

二十八

| | | | | | |
|-----|--|----|---|---|---|
| 和書門 | | 九一 | 函 | 號 | 類 |
| | | 一三 | 架 | 冊 | |
| | | 三五 | 冊 | | |
| | | 三〇 | 冊 | | |

| | | | | | |
|----|--|----|---|---|---|
| 和書 | | 九一 | 函 | 號 | 類 |
| | | 一三 | 架 | 冊 | |
| | | 三五 | 冊 | | |
| | | 三〇 | 冊 | | |

| | | | | |
|------|--|----|-----------|------|
| 內閣文庫 | | 番號 | 和 | 9151 |
| | | 冊數 | 30 (28) | |
| | | 函號 | 174 | 161 |



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



教部省
文庫印

圖書
文庫

近江國輿地志畧卷之九十二

丙一〇二六七號

高鴻那

圖書
文庫

巨 寒川 辰清 編輯

此乃鴻乃名々百葉集より以來世に此撰集なり
此乃郡南々志賀郡に隣り此々各使玉取大
枚山波か畑山より至りて東に湖ありて
良々鍾あり乃玉界より交り巽ハ湖より連り甲々

山城丹波若狭之西乃界一橋一軌ハ若狭の
国界ニ至ル大凡この郡南ハななうがして東
西々南ハよりとみーかー

○音洞庄

或曰音洞乃庄也云々村よりして音
洞歩下伴黒畑麻ヶ淵多うと又白下伴垣法冷
寺永田云即音洞以云々村なりといふれり是なり
ことを云々庄乃義々割庄の条下ニある
せよ云々人乃所領を是より是とて言ふ

汗程と河乃庄某の庄といへば時代よりして

沿革あまも矣況ふく一六二ハリなり

○お下村

尚郡乃南極志賀郡の界

ありなり郡界をお下村乃南白壁乃神社の小
りありお下と号する所謂法まひらうなり
いへとも六乃地湖辺ハして去ると比良山乃と云々
なれと鼠をけーと下と云々いふの名なり
ひら乃山とろーと云々歌あり 志賀集あり

範兼乃歌よも さう流ゆひの言報乃山と
海し紅糸とろこの相とありつるやいへりかこく

打下乃名を比良山の打下一なる

○打下坂 長と一町あり

○田十八辨 打下村乃内あり其乃地志

賀郡ありの事いへり打下村乃内なりあり

志あり大なる石仏ありお借住古十八体ありと云

いよつづりふと十五体あり坂本慈眼大師乃窟内（下あり）

あるやうりの石佛と其の地の石仏として所謂四

十八体の内なりといへり今あると云後乃石仏有

と四尺余なりと云又二十二年（天正）休木茂賢

先姑のためり石佛乃阿弥陀を建之と云四十八辨ハ

弥陀の四十八辨と表出といへり寺あり接取毫と

号は其の地を（名）武家の墓なり

○最正寺 打下村あり一白宗本

刹寺の末あり

○滝照守

同村小あり同京西中野の末流也

○勝野

打中村と大溝との中間をいふなり出乃

辺と勝野京ともいふ勝野と云え勝野より流くる
平竟船立小あり大溝河を竹のまなり小玉の海
流なり款とあり陸野京ともいふ

万葉集

大御船竟る依古布之流の三尾の勝野の末流在思所念

家隆三集

高瀬川のつぎのせせりやとていふも田んをのちと云

新勅撰

淡人不知

い流くわ我富ふせん言勝の勝野と云ふはの目く志河

新六帖

知家

思ひるる介とめなるとのれ勝野と云ふはの目く志河

史本集

法市言流

と波やを流のこ流のいお流と流のとゆふ流の垂るしる

新葉集

大政大臣

了職回七清信院為城りあつて後分郡たふ屯
光信為あり封せしむる一々一民家立居り大溝
の名とあふぬる末石垣村ととあつたりて大
溝の所ととて不謂之可ハ本町申町西町新
町長刀町磯人町是なり

○山王神社 大溝分郡成郡の之所バうある
乃山下りあり日吉七社と能清ととて丁後なり
一々一清ととて分郡毎年四月二日石垣村の土氏

かきりし一祠宿とたるけの神社もと石垣村の産
土神なり大溝繁昌とて有る大溝乃神と
稱す

○圓光寺 大溝分郡成郡の西一町あり
山麓あり噴松山香徳院と号し淨宗派海
流京東福寺の末ありお傳は乃古神傳傳乃
圓光とあり分郡成郡の末あり不ありて
分郡光信為あり封せしむる一々一民家立居り大溝

六の地よりなる

○踏雪院 大溝分郡氏部の西糸光寺乃

下よりあり即糸光寺塔頭なり

○慈峯院 大溝町乃備りあり本尊観音

○桂芳院 慈峯院の内あり少とて糸光

寺の塔頭なり

○願應寺 糸光寺の南よりあり三室院の

末流なり 願主分郡氏乃初終なり

○大善寺 糸光寺の北よりあり古盛流なり

○勝安寺 大溝町乃内よりあり一向宗初本

願寺の末流なり

○妙琳寺 同所よりあり一向宗末本願寺乃

末流なり

○古城地 大溝分郡氏部乃四五町上の山の

頂よりあり本城二の部の地いなり 跡在なり

城より高き立書元在城の地なりといふけしを長

寶寺山々之性古長室寺といふとありて言傳
七ヶ寺乃分一として山門之子坊乃一院といふ
法れ乃日ヶ寺廢し城地とせしといま城も亦
舊墟とせしとせし地也といふ言傳七ヶ寺のその一
世喜寺といふ寺院とありしとせしといふその
ふ知る人なり

○古城地 古くはち今の分郡氏の邸是
かりて寺乃あり今より新在と出乃城ハ作木

家乃武臣磯野丹波守孫城乃地より織田七言傳
信澄も出乃城より孫織田七言傳信澄ハ信長の
兄武義守信行の子ありて信長乃とありて姪
なり

○関寺旧跡 大澤乃とあり

○音羽村 石垣村乃ありあり滝あり川あり

山の形も粗都の音羽山より似たり因て音羽といふ

○長谷寺

音羽村乃上の山あり白蓮山

長谷寺と号し縁起畧りいし皇武天皇乃

御宇^{よふ}延江^{のりか}玉言^{たまご}語^ご那音^な羽^う庄^{じょう}三尾^{さんび}山^{さん}十^{じゅう}海^{かい}丈^{ぢょう}の

楠あり常り光とる川白蓮菰と生る或は

神火枝とやき激浪振と洗ひ自波より流出

と志賀郡大津浦小湊泊る事年久し而

後養老四年山の木とい大郡玉言市郡八木里^{やまの}

ありはは徳后上人竹庵と泊瀬山の東の峯に

結子十五年山の木とい十一面乃尊像と造らんや

わつは神皇四年四月八日観音地蔵尔現して一切

成就^{じょうじゆ}生来木の二尊を大和の玉泊瀬寺後岐の国志

度寺の二尊是なり本木の二尊とあるも高きふ

あ置^{あき}片^{かた}や云く観音吳湯記小菟系我の縁記

畧説と引て曰和列城上郡長谷寺本尊十一面観音

御長二丈二尺開山徳道上人道明テ人カを^あ護^{まも}せて建

えらるる縁の村^村と江州高橋郡三尾の山より

涌出する霹靂木なりと云く 巨樹なるなり
日記に云 安藝の西に一木ありこれをとらん
と云く 霹靂木阿波の巨樹にて勅命をのたまふ
霹靂木と云く 出の木と云く 水と云く 是と霹靂
木と云く 是と云く 是と云く 是と霹靂木
震焼木雷の撃つるの木なりと記す 例に
氏子木成神神りせんとして霹靂の名と云く 是と云く
たり 巨木の様くさの木なり

○ 観音堂

長谷寺ありあり 當古の本堂也

棟高より十八町のありては堂あり 土佐嶽の観音と
いふものはあり 大和長谷の観音 讃別志度寺の
観音三神一本を法と云く 是事つらなり
長谷寺の縁起及志度寺の縁起見え
別當と明王院と号す之室院派の山伏と云く
羽村より伝ふ昂尚山々古歌より詠せるやうの
之尾山なり

○龍王階 白蓮山よりあり階二つ候り幅二尺

余り言四尺あり言るれ三尾の松川ふ入

○三尾山 あらひと水尾乃字より作る早竟候

名ありそ水尾も三尾も中書ありはの山より別

嶽の観音ありは池の山はき惣名と三尾山と云

出の山の藤瀬湖あり遠哉三尾が崎といひ三尾の

浦と云歌仙乃詠吟と云一山の山あり中山そよ松山等と

こあり

拾遺集 讀人不知

三尾の中山松と云はくうかぬる文代のありと云

新勅撰集 康隆

三尾の松山ありと云氷もゆきもぬる記ありなり

新續古今集 後九条

三尾の松標ありと云はれ三尾の松山幾代強ぬらん

竹庵集 頼阿

五月あり程川ありと云はれ水尾の松山雲そかきと云

新六作

信長

之尾山の松のこゝろ木のこゝろあふ松葉あふ好いといはれり

丈木集

信長

さゝあや近江の之尾の山と云へば松葉を以て松の葉と云ふ

○宮部村

大滝のありありあり一是祥塔と云

山後出の地り信て代々信木滝井り属り信

信長のためと云

○若菜寺

宮部村りあり一向宗の本願寺未だ之

○野田村

宮部村の水鴨河乃水源あり

○妙楽寺

野田村りあり古堂あり

○永田村

宮部村の東方滝の西ありあり

信木流の流永田なるゆきの地り信を因り村

乃名と云ふありた馬のゆきあり永田と云

地名と云ふたると女共氏と云ふものなり

たるとゆき坂本合戦浅井朝倉の先鋒と云

信長に討てて家滅滅なり

○古城地

永田村ありあつ平城なり今小段の跡
ありきれまはかゝら永田なるゆ秀宗孫殿の
地なりといふ織田信長公のころに之を或云永田我
とたるにゆゑありあつは右近衛尉秀宗なりといふ

○常勝寺

同村ありあつ一向宗の中野寺末派あり

○弘善浦

永田村の港とといふ一り福海浦と

といふ本村より五六町下の港なり此の浦を網

とらふやうの船と弘善船といふより土産門の北

りあり

○清涼寺村

大溝乃ゆありあつ今と喜次村

小作あり何あり長とる山とを初とまといは清涼寺

ありける寺ありといふ也詳しうあり

○慈教寺

喜次寺村ありあつ一向宗の中野寺

の派ありし中侍後柏原殿の御宇中野寺より

十段殿和許あり昔一といふ即慈教寺の旧

地より入くといふの寺といふ志賀郡墨田あり

何時より此地へ遷る年歴法をいふ事なき事

○ 杣川 孝冷寺村と大滝との間ありあり幅二宮坪

みえりハ三尾の杣山より出曲折して大滝寺跡
寺の間とわかれ湖あり入

○ 伊黒村 音羽村石垣村のありあり

○ 法泉坊跡 伊黒村あり今々園林あり

○ 村老古傳古昔伊黒の法泉坊と号し山徒ありて
此の所の所主なり淺井家小属一法泉信長

乃ためり亡き色て存吉武村より整石と云

○ 廣瀬村 伊黒村の南ありありてあり村人

○ 畑村 廣瀬の南ありあり畑村といふ事

惣名ありてとて二里ハりの深き谷なり園
畑名といひ一廣瀬北坂黒谷須川なりといひ

こ中の小名なりけ谷中に入りて寺社あり古
蹟もなり

○ 俄雲菴高跡 畑山の頂ありありなる

菴といふ山とて高き古老傳て云このあり
菴あり俄雲といふ菴内より鞠圃梅と号せる
梅ありりといふ菴も村老の傳ののちては
ひらき

○八池滝 畑谷の上八池山ありあり園と池の
名といふ大小の二滝あり大滝を流るる二丈ま
かり小滝も二丈許蓋云流の流るつたハ
ありかきいへ八池の流といふ山の名といふ

いへ山の水の末鶴川といふあり

○手桶岩 畑山の頂あり保田の山とて
乃手桶り似る岩あり蓋いりかきいへ山の
山名とていへる雪かきいりかきいりかきいり

○標ヶ嶽 八池山より二十町ありありあり
た乃山名とていへる山とていへる山とていへる
純頂ありありありありありありありありあり

○上孫戸村 音の所のありあり

○祥智院 上孫戸村よりあり 祥宗伏見殿
姫宮龍溪聖皇御孫の宗基より 御弟戸百二
十石寺修行より 同基より 第四代より 伏見殿の
姫宮任職より 第五代を光蓮聖皇御孫より 第六
久我内府の女より 第六代を御堂聖皇御孫より 祥元
より 轉法輪前内府の女より 第七代を
ありて 又伏見邦永親王の姫宮より かくのこ
を 連続せりと 以上 土佐高松の足御所より

○石室

上孫戸村乃上の山ありあり 古俗お傳

○上古火^火ありあり 記略に 遠く 古俗なりとあり
より 火の始より 其の義なり 日本記ひさめとあり
久しきありあり 其の義なり 古俗なりとあり
平板の日本記より 火の文字の作る 大の字
火の字の張るものなり 大の字をひさめと訓
かゝるより 上古火の説とあり 其の義なり
かゝるより 志賀郡桑坂平桑郡田上里村の山中

ふも石窟多し一みる古俗ハ火面の説をいふも
かまもあはれなりけし所のあはれを臨道影^影と
てあれをいふも古昔に墳墓なりけし
亦按さる小惠美押勝が家族二十余人と水尾^{ことが}崎
よて斬首せしとあれハ彼後朝の墳墓を所縁
乃人の築しともいふ

○下^{あふ}碓^{てい}戸^い村

はるららと尾山の麓あり

○水尾社

下碓戸村あり即ち尾山のふもと

なり川と隔て二社あり其所の神二座南ハ猿田彦
命河童乃社と名づく水々天銅女命なり河比の
社と名づく延喜式亦名掲し所謂水尾神社二座
昔名神大月次新嘗といふものなり今あ社の
間子河と名づくおはるらら古昔々あ社乃間と尾川
流のまはり河童河水の名ありよの社比白髭山の
尾續なり當社ありては乃山と水尾山といふ
今も之尾の字ハ作湖邊の出所とあり尾^しなり

いふ古々社所も多くありて繁業なりしを今も
僅り其形のみのおれと七位ありて白蓮正長
谷寺の復身なりしとしか歎きとて三代實隆
曰貞観十五年閏六月廿七日戊子校近江正
五位下之尾跡從四位下

○水尾川跡 今の河南河の水の社の名と流せ
湖水より入流を水尾山より出るといふは川も
なく知る人もりし

○水尾跡 こゝとがなほ 水尾山の山林湖水の玉跡高野郡
界より鴨川ありて乃ち熱名なりありしを水尾の浦
水も流る

万葉集

あまひてくれとさきまてこころをまらめ 思台船来ふ猶も水尾跡と長の浦乎又願津

貞作百首

とていさくを乃んて記の浦丸とてぬ津の月と見るか

実方御信家集

近江ありて三尾海と云ふ所を細引と云ふ傳る

三尾の浦ありて引成りて海なるたふあつて終ひしと

此處より應神天皇五世孫彦主人王乃別業ありと

云て日本記り出さる 繼體天皇 紀

曰男大迹天皇譽曰天皇五世

孫彦主人王之子也母曰振媛

振媛活目天皇七世孫也天皇

父聞振媛顔容妹妙甚有嫩色

自近江國三尾別業遣使聘子

三国坂中井納以為妃之云

正一位后系惠美押勝宅を以て於感と云ふ

聖ありふり削道後法所孝謙帝より聖

て寔業を以て押勝を於成りしと云

ろふを以て平家字八年九月送謀と云ふ

と云大和記云岳比良磨押勝の事と云ふ

福の事なり乃んことを恐懼し奉と云ふ

大よ勢をたてし官軍として押勝る罪を問問
む押勝事の不意をとつしお急々の謀遣ひ
妻子と引鼻し同道し近江路り逢せしむる
山城も日下部子磨石河府生依伯伴多智田京
路し先をへし勢多橋を焼落し軍を張て
甲州押勝なるなく湖西り後て言勝部しあり
前少以角家是う宅小入て暫息友軍水陸二方より
攻付押勝休て道祖王の見坊焼王と立て新壽

少きし天子の沛諫とあけ給敵敵ありあきりとの
去似して防そたかり下部依伯攻攻討とあり
押勝敵かて殺ゆるしと取しありて捨捨棄し
行とて悪風起つしと尾崎小吹とあり依伯
之野大正貞本等兵ととるしとわか年し
甲の下刻ある官兵石村石指押勝と生捕取と
副るとい外妻子供意の志と十余人搦し流し
をいて斬罪しとの事續日年紀等の誌せ誌

出

○鴨川

水尾社のおと流る川なり昔古
此の川伊萬乃色より合流して海州となりし
とし今も流る此の鴨川の川幅六十間なり
風多しうては甚く水の増減あり源と二つ一
流大畑山を出て横山村を経て上寺村の中を
東へなりぬ其田村のおと流る鴨村のおと
流るおとく南より流るて流る入る山城の

鴨川のおとをわけて山間を経て畑谷の山と
流る盤曲して南より流る伊萬乃色川宮
郎神寺のおとを流る鴨村のおとを流る二流合して出
鴨村のおとと流るて流る入る鴨川の名を
水源山城の鴨川より出るおとを流る山城の
おとを流る川より鴨の社鴨村のおとを流る名はくと
としり按るより古山の流るとしり魚を
て山城鴨社の神供流る敵せしと彼社の意地

うへへへへへ 結建とい川名も是ふふとの記

○鴨村 之村あり宿鴨村南鴨村北鴨村あり

永田村香令寺村の山ありあり ^{蓋元} 蓋山の地鴨川 ^{八田元} 八田元

川世より屋舎ひ山城の鴨川合乃形なり

かまゆへり村の名とはと云 臣按さるふし記

形なりへり鴨社日記とよし東邊より記とて賀茂

別當の社原ありて糶魚と神供よとありしと

是くして志うれしけ村と鴨とよしとるこお習あり

之を法神本記小云法玉郡邑の内よりかまゆへり

賀茂といふ地あるものいふなりとていふ

○天皇社 鴨村小あり七倍云半部とてを

かまゆへりとい記非なりへり 按さるる 古社とて古社

造り多神原るるといふ 賀茂皇を神宮とていふ

なり へり 賀茂皇を神宮とて本朝二所の宗廟と

あり 神武天皇代に所りていふ地とて天皇社

ありふも 樞ありて賀茂皇を神宮と神武天皇

なりといふ説源春海翁の瓊すい子拾しゅう送そう小せう人にん
且神祇道乃字頭雅淑翁り記しあり且と賀が
翁の字なり出して下と鴨の字なり出してあられしけ
少す少す乃鴨川鴨村みか賀翁の字と書かくんん
強しやうりなれとも後世誤と傳つへていまはさるん鴨字
とゆらゆ

○貴き船ふね社の 同新しんあり祭まつりは山やま城しろ貴き社の

○山王社 同どうあり祭まつりは本日けふ吉きち山やま王おう社の

とあり山やま王おう社の祭まつりは毎年まいねん三月さんげつ廿にじゅう一日いちにち
あり

○慈教寺 同村どうむらあり一向いこう宗しゆ東とう本ほん刹せつの院いん

家けありと始はじめ音ね冷れい寺じ村むらの慈教寺じきやうじと祀まつりと同どうあり
一いつ目めお分わきく奉ほう經きやうの二に派はいあり

○出鴨村でうかむら 鴨村かむらの東とうありあり本鴨村ほんかむらとあり
氏家うぢけあり是こゝ鴨村かむらより出でる乃な毎まいとあり鴨

と号は古儀の類と出立所出居敷と云ふ所

○武曾村

武曾村乃山あり横山下野を所城

乃踊なり下野を所城 庶流を鴻七郎の一

負なり作渡守を長としるハ姓下野を乃事あり

武曾横山と願ひ

○横山村 武曾村の地あり

○古城地 横山村あり横山下野を所城の

法なり平城なり横山氏ハ鴻七郎の一人なり

横山信長の所ありハ鴻七郎武曾横山氏を所城なり

長なりと云ふ

○若宮社 横山村ありあり庶流を所城山王権院

正一院ありと云ふ

○大清寺 同村ありあり後光山大清寺と号なり

庶流真盛上人の開基なり

○田中庄 上寺村佐野村三田村馬場村仁和

寺村 せんふ 産所村 しんじゆ 南市村 なんし 下城村 げじやう 浪治屋村 なげぢや 横井川 よこい
村心とをいふ

○上寺村 かみでら 横山村のゆりあり横山村と寺村
の里小八田川といふ小川あり此の村のこの山
松蓋寺あり一園と寺村と号す

○松蓋寺 しょうがい 三宅村にありこの山四町許あり
言題山善門院と号すお傳古昔より大伽藍と
いふありと繁昌の松園ふといふ語せし寺の長

一院とといふ今より観音堂一字を安んず
比叡山延暦寺の末寺なり聖観音乃像長二
尺慈悲心僧形乃作脇侍不初明と昆沙門天王
他祥と云ふ

○古城地 上寺村上の山あり田中播磨守

實氏居住乃跡なりと語七頭の一角と云ふの城
と上乃城と号し南市村の城を下に城と云實氏
と階籠前も惟範と九男田中十希惟業と二男

次郎惟氏、末葉なり、仲々、土乃地、り、位、
田中、れ、名、と、呼、び、田中氏と稱せり、秀吉公の、
幸、り、田中、兵、部、を、補、を、政、と、し、之、を、世、實、氏、の、子、なり、
事、を、詳、し、り、人、を、門、り、裁、り、

○依賀村 上寺村の北東にあり、おほく、古昔
坂村より、能るをせり、その文字、政、と、し、り、

○藏王権現社 依賀村にあり

○大畑山 上寺村依賀村の山なり、其の山の内

西通り七所、一、間、東、へ、通、り、七、所、十、八、百、歩、と、り、
三、所、五、十、百、南、通、り、二、所、三、十、間、を、
御休山なり、
當君の

○三田村 依賀村の北東にあり、其の地、本、跡、院、
略して号して追世い、その文字、あり、む古昔、所、跡、
地、地、山、繁、昌、の、と、り、其、の、色、通、り、の、路、也、跡、院、
号、を、略、を、一、条、乃、乃、なり、

○玉泉寺 三田村にあり、其の地、流、坂、本、跡、院、

寺のまの川寺あり

長覚寺

同村小あり一向宗西本願寺末流之

○馬場村

之田村の小ありあり此れ地と云牛頭
てまのつ場りううて村居と云とあり馬場の名
あり

○牛頭天王社

馬場村の山ありあり田中郷の産
去卯より毎年五月一日祭礼のとき競馬と近年
吉田より二返牛頭と云と稱せらる

○仁和寺村

馬場村の西南りありお侍古昔仁和
寺と号するち此乃跡なりといへともて旧跡も知
是が跡とも葉師川といふ名あり其跡仁字此
旧跡といふ也。おもあまはけ流是なり

○葉師川

小川なり川より石縁の葉師佛
あり因て名く又氏居を推て葉師川村といふ
仁和寺村乃内の小名なり此の葉師と傳古仁和
覺昌の寺に乃解佛なり

○地藏堂

仁和寺村にあり小石地蔵とあり

○産所村

三陽村の北ありあり古伝お傳之重

生神社といふ石礎礎とあり乃産所一産所とあり

生たまひしとけ地ふあり二産生神社といふ地

二産生の社をとりはあしりけ地とて産ありし

ふり村の名とありしは長梅とあり非あり産所

村とありの地ふありしは法正部とありかありとあり

とあり法正部一郡二村三村ありしと村の地

とありいま懸唱ありとあり旧名と改せるとあり

間ありあり産所の内坂田郡山も産所村といふ

ありありありの地と子出産の謂の名りといふ

ふりありとありのとありとありとありとあり

又法正より産所村ありと法正を神道とあり

と懐胎の女は月りとありとありの産所村あり

産所七十ありの浮禪院ありと本の村とあり

故り自らの村とありと産所村といふあり

宿村といふものあり 経ある女汚穢汚穢の中を此
村より入申せら宿村宿と遊女遊女とを云々淫肆小似
すふ山ともあり今の宿野村宿野といふと昔は宿村
乃名妙なり

○之尾里村 仁和寺村の東なりあり之尾山の山
麓ふもとなりとい名あり此宿村宿と石橋村といふなり
之尾山の麓ふもとなりとい之尾里と号するの古書に
志ることも宿村宿梅梅とあり高車記なり

垂仁天皇所生皇子十男三女磐橿磐橿別命磐橿の命之尾等
祖と云々是と以て是と磐橿磐橿別命磐橿の命の子孫
連綿して之尾と号するも知久知久と以て和名
之尾の郷と称する之尾里ハ之尾にり多し一郷と
こゝに似たり

○之尾神社 之尾里村にあり古伝云祭所
神体是の玉之尾大明神なりと梅梅とあり延喜式
社名帳にいとあり是尾神社是なり其語之たま

洲のお似るを以て浮世誤りん

○信光寺 之尾黒村ありあり一向宗の本願寺也

東流りり

○妙光寺 同村ありあり同宗

○満願寺旧跡 同村氏家の所あり時代詳りし

○鶴塚 同地満願寺旧跡の前ありありいよ室蓮

平塚一基と建るたりと一文ありあり古傳古昔山の辺に

唯雄乃一落あり或日一雄と射ありとと頭矢てえへ

去るの翌年より一唯落と射殺しよ去年じ

「るふゆいりの雄落の頭刻唯落の羽害相害のりり

あり土氏ととありれと埋て塚と築くといふ

通鑑綱目卷之九十二

臣 吳州 辰清 編輯

通鑑綱目卷之九十二

○ 通鑑綱目

通鑑綱目卷之九十二 臣 吳州 辰清 編輯

通鑑綱目卷之九十二 臣 吳州 辰清 編輯

心ふき女の桶とくくかひるのこもくしをさし
やりこふ女お笑てふもてとるれくるち
るりれさいとさうなくさくかひるをひ
とふさうさうけ耐桶をいさうして我女が子を
銀りもさみてさう我長真あつて思極うや
屋久あなれともいふもけ子をさうさうり
引ぬんとされさいとさくさくさくさくさく
をさつ魚くもされてかれさうさうさうさう

女の形よ後さ行り女家よ入ぬ水お盆て後
手をさうりお笑てさうふてもいうる人よて
あー桶にそと云けーたさかーカさうさうして
たへさくさくさくさくさくさくさくさくさく
お撲乃爺といふおさあつてカカつさうさうさう
さうめさう中ふ入さうさうさうさうさう
さう女おるはさてあかおさうさうさうさう
ひろあれをせはさくれさう大カを伝んおさうさう

乃かひるしそいひも道とていふこの大いふを道
答ふとあしひかくえ集しとあるも物とていふ
は節の初もなるなりは後とて言通ぬ一の之細
うちあしひひもえとて日数もあつ若く
とあひてとてあしひなりとてあしひとてあしひ
知つてくはしひなりとてあしひとてあしひ
せうとてあしひなりとてあしひとてあしひ
わしひなりとてあしひなりとてあしひとてあしひ

ばかくとせうなるしひなりとてあしひとてあしひ
乃なりたるしの上とてあしひとてあしひとてあしひ
のりしなりとてあしひとてあしひとてあしひ
持しなりとてあしひとてあしひとてあしひ
とてあしひとてあしひとてあしひとてあしひ
りしなりとてあしひとてあしひとてあしひ
申る。名の何なりとてあしひとてあしひとてあしひ
とてあしひとてあしひとてあしひとてあしひ

的を射る乃式なり大爺大古こといふも古の最といふ
 よう出せる古実ありひあり今時のりとうあつふ
 人乃大爺大古みめあつとさうさふあつて爺ある
 四(大)とさうへるはいさうさうさう爺ある由(大)
 爺といさうさうありあるを何ゆへ小大古といふ
 や波の武士乃弓とさるふかかろるを^近味は
 大や(な)

○南市村

産新村乃東小あり

○銀治屋村

大和派治宗忠といふ銀治を^近はさる

○高郡木津

人うて木津入道と号し^{やのぬ}波の妙子

なるといふは古今路ありふさせといけ地の
 通ありはせゆへ小乃名ありふや

○横井川村

○三重生庄
村といふ

西番^{しばん}原村^{はらむら}十八川村^{じゅうはちがわむら}三重生村^{みえむら}といふ

○五番願村 南市村乃少あり

○古殿地 五番願村小あり 平城あり 山崎

兵庫頭居住のありあり 兵庫頭なる高橋七郎の一
負より織田信長のころあり

○十八川村 五番願村の少あり

○三重生村 五番願村のありあり

○三重生神社 三重生村あり 延喜式神名帳

所謂近江國三好郡 三重生神社是なり 古俗云

磯磯 天皇 皇后一時小 三子と誕生あり 因り

此の地りなる系又地の名と云りし 糸礼毎年

二月十八日 祓馬一匹 祓牛一匹と 祓あし引紙と 細

かふ びり 敷いて 雪のぬき する こと なると

斗の糸より 糸 俵 糸

を江あり 此糸乃 糸と云り 糸と云り 糸と云り

○庄塚村 三重生村のありあり

○福田寺 庄塚村小あり 一向宗 東本願

寺乃未流り

○上小川村

出鴨村乃少小あり

○小川典膳墓

上小川村小あり小川氏は徳

木家の武臣にして世に地を領し因て墓と建

於古昔其屋敷地いりり存在り

○藤樹書院

同村小あり中江と爲り惟命講

堂乃地ありいふといふ門人出と講と書院西の

隅にありあり因て藤樹先生と号し畀内二十百

四百あり書院四より八百あり著傍り祠あり

藤樹先生乃神主と安重と原主合部在東京亮

信茂治地あり修補を臣按はる小令せ賓客客

漢乃席と稱して書院といふと流る書院の名

を漢の代小始唐乃世一具り宋の時盛ん

なり蓋古一の席席の條あり本朝将学院

初学院字昭院字亦惟流ありあり

○玉琳寺

上小川村氏家のありあり其堂

宗坂本西教寺の末寺なり。開基傳うなり。

○藤樹先生墓

玉琳寺の界内あり。

曰く、石面 藤樹先生墓の石字を以て先

生推して、江村の人中江吉次の子なり。小川

氏慶長十三年戊申三月七日生る。玉陽明の学

を以てひ世に傳ふ。功あり。出で、伊豫の石大洲に健

て加茂出のり。 伊予安元元年八月廿五日、旧里小

還り、病て死す。享年四十一。葬す。その墓の

地、墓に藤樹の傍に、藤樹あり。故に、川入藤樹

先生と、溢して、祥ふ。人お門に記す。

○常省先生墓

中江左衛門三男孫三郎常省

常省は、その名、備前國赤松に、後宗討馬あり。

伊予室永六年、退隱して、その地にて、死す。門人常

省先生と、溢して、記す。

○下小川村

上小川村乃、東にあり。

○横江村

下小川村乃、西にあり。

間を経て湖水に入

○小舟木村 こぶねのきむら 南舟木村の小舟あり

○古城地 こしろ 小舟木村の湖にあり年城あり

作木能中舟城のありり織田信長のこあり

亡る能中舟城のありり織田信長のこあり

○白石 しろいし

○立石 たていし 小舟木村の中舟木より一里東あり

ありり立石を常りありりありり満ありりかく

此は水上二丈ありりありり

○安曇川 あづみ 川幅二百百許ありり所より三

百百三百二十間ありりをよふ常水三十百ありり風あり

ありりありりありり増ありり河系ありり新庄村ありり

いて河渡ありり大概丹波界ありり舟木より二十里

余の長ありりて湖ありり一の大川ありり東進及

舊記安曇川ありり作る万葉集ありり河渡の字あり

作る日本紀ありり吾名字ありり作る古語ありり安曇

川といふものハ北より南と二ツ一を坊村川の東
派より野尻嶺の東南より至て朽木川と合し水
より折り東を繞りて中津村の水を過り斜り南曲
るより南古賀の水を經二在村新庄村の中間を過
川島村の水より二流となる故より水の下よを以て
二股川といふ事なる事水と在を安曇川と云南よ
あると新庄川と云事水の安曇川結鷲等の急を
産古古昔賀茂社へ神供よりしり 鯉もけ川より

細せしといふ安曇川の經を賀茂社へ献せし事
水と賀茂社歴代日記といふ事より云々 新記を
賀茂祠宿七家の内田中氏の私記秘なり古昔の
例より云々といふ事と他の急を賀茂社へ 献せし事
記も安曇川乃急と云事いへりむうし此解習句
唐一東鑑文治二年丙午九月五日條下云

下 近江國安曇河御府

可令早修停止定綱知所任先例勸仕神没事

自鬼道河湊比入近江国吾迹
邑暫往云蓋の辺のとう和名抄をわんかむ六
伊香郡少安曇といふと此後あきそ何れや
詳しむべ

○西万木村

西万木村乃東にあつ長按はるり

ゆきと訓はるらるるの轡邊はるり
まを申畧してよろ木と申は申畧の類を
まを申畧してよろ木と申は申畧の類を

まを申畧してよろ木と申は申畧の類を
亦いふゆといふ是音也
以てはるりゆる木と名付しなるりかる類を
まを申畧してよろ木と申は申畧の類を
あつ風りあつ風りゆきと申は申畧の類を
まを申畧してよろ木と申は申畧の類を
残かんふ道はけ道はけ樹木繁茂して幾可樹と
いふもあつ風りゆきと申は申畧の類を

号一辰と轉遷して今ゆゑに村といひしるる東
乃万木村いす一の万木の森の伝なり

○東万木村 西万木村の東ありあり

○万木表古跡 東万木村より二町あり小

その旧跡として枚の木五七平のいりあきとも按する
りし年の東ある木の二村のを遠古昔志とり
なりしり多し法少納言枕草紙よりなり
かついかゆ記の森よりひとりありあり

そのいんすたうりれとありありありなる 古儀の一
名を延喜の表の旧跡といふもありありなり万木
乃系とも強せり

六帖

ひるより万木のまに延喜乃や記字秘す意のやつ
名あり 好忠

雪好丸のゆゑに表の枝よの物ひの延喜丸なることなる
ふ五百香歌合

ひらり神のなまはつともあつて万世に傳ふまゝとてふ

史本集

貝代

時の名もいつてう露のたまもくんのまの草のまゝとて

○新庄

新庄村 河原村 小畑村 河原市村

河原村をいふとも増減あつてはまひりあつて

あるは新河井の二村とて六里村といふ

或は井は河原市安養寺平井小畑新庄城川の七

村をいふともいふ

○新庄村

川島村の東よりある村なり

○古城地

新庄村よりある言七段の内新庄

俣野宮実秀飛佐のあつていふ

○河原市村

新庄村の西ありあり

○安養寺村

河原市村の北ありあり

○平井村

安養寺村の北ありあり

○古城地

平井村よりある言七段の内平井

俣野宮実秀飛佐の跡なり

初年日流滴る競るあり世途河系市村東河系村
ありまゝに社を河内社といふに記をかく以大河
系非社を之く或説り曰三代實録より貞觀元本時
六年十二月三日辛酉阿波川田神社授後五位下
少あう々山の社のあそなり阿波川の傍といふ川
田乃田の字内乃字に創りかろゆり得て河内社
かろといふ

○栴楽寺

同村ありあり浄土宗五文十九庚戌

年光菴田成開基

○東河系村

新立村乃東りある村なり

○太田村

東河系村の東りありありの村なり大工

とく修むと西十三箇の年大園秀吉公大工十七
人より二十七石に沸糸下を給ふと好時世云々
いま僅り詔彼のこを免許あり京中井至水
より属す

○天満天神社

右田村ありあり系とてら菴

巫相乃靈なり按ふるより此地延喜式神名帳より
我たもあつたりの古多の神社の地なり相換星
移す式内社もとくはその名をうらふ高社も
いふ一への古多社の地くて備天社と初後せらる
魚一文永元年乃棟札あり甲子に棟札あり大村
長老寺々元友京實克東村長老河恒真西村長老
林宗重新村長老藤原実光と出立大田村の産
土神なり

○安樂寺

左田村よりあり萬堂山と号す本
尊阿弥陀座像長四尺一寸照侍地蔵菩薩毘沙
門天大若り之像長三尺三寸皆三尊なり恵心僧部
乃作なり尚寺の園基洋うなり

○菓園村

方田村の山あり

○饗食場莊

お傳いふ本津莊と号す此庄名
りありむいふ於期郷の近臣饗食庄之部名氏
乃也童莊庄命こやう齋丸の地と号すいふ今市

御威於末寺庄園敬不令忘默念延年三坊
庄氏觸事現奇怪之象不知其子細凡子任旧
例且依先規可令步定備亦之狀如辨解以下

建保四年八月三日

小寺之法師應後

寺主大法師

都維那大法師

修理別當法橋上人任奉之

上座法橋上人任奉之

山門雜掌與尊勝院雜掌亦備近以園本津庄
者如古契境事諸文披見畢如執進代友言久
狀亦作亦大程古更入道言通代狀若彼備所十
之條之通為本津庄内山門修之院其子細言
此之系字勝院競望^望の金山門雜掌而替之由
所被作下也仍執違如件

應永十二年四月二日

沙弥判

佐本備申入道殿

江列高崎郡本津庄為三千石借料所保地事
中山門御寄附以來當知所四至傍亦知地境
之事

- 一 東者限比敷新庄步改事
 - 一 南者限十三條南境西作尾南小坂之事
 - 一 西者限若狹路過分事
 - 一 北者限十八條小坂坂倉山南字小野之事
- 右連保四年口至傍亦被定並于今當知地境一事

任之若階乃之事令遠相名可被更罷料之
狀如件
山門西塔院執行代

永正四年丁卯九月
官判

今度若積与高庄就山場目之依出入之由安從山
門之書相之被足小無上名下在本津溪二ツ石上名
一の限傍山之峯御所可有異依依謹言

丹波守

天正三年九月十二日
貞昌判

天正三年 養庭 百姓中

今度養庭与若積并古賀山境目出入依付を
弘明寺後院養庭山門之申物磯丹波折紙の流
上不如先叙申付少也

安長二年九月二十日

養庭 百姓中

玄次判

○今市村

平井村の少あり

○辻沢村

今市村乃少あり

○山形村

今市村辻沢村乃東あり

○森村

山形村の少あり

○貞高親王墓

森村あり若松ありとも文字

是れは古俗の口傳く事なり

○霜降村

森村の東あり

○深溝村

霜降村の東南あり

○針江村

霜降村の少あり

○源氏溪

針江村の湖邊を事井記よりたり

○田井村 汗江村の東ありあり

○五十川村 田井村の西ありあり

○古城地 五十川村の三山ありあり 吉武を波吉古

城の地なり

○下湯三社 五十川村ありあり 祭礼毎年四月

初めさる日

○報恩寺 口村ありあり 福宗

○愛宕権次社 口村白雲山ありあり

○法泉坊跡 一 五十川村ありあり 伊黒法泉坊跡

居の跡なり いま竹藪なり

○米井村 五十川村の南ありあり

○米井寺古跡 米井村ありあり 徳古をさる寺也

寺に寺一負として坊舎を並べ織田信長公の

ためよとさる寺焉とまつてそのありあり

元祿の初録酒井若元三大師堂一宇を建立し

米井古の旧跡とていま米井寺といふ下を宗

元三大師のあまを法まひくう子志賀郡坂中及
浅井郡くうまひ

○上野村

五十川村のあまあり

○日尻村

上野村の北東ありあり

○古急寺跡

往古南村ありありと誓昌乃る地

あしてまほ七ヶ寺のこま一色くうとくともいふ
その旧跡たふ法まひくうあり

○水津村

長村のありあり

○吉武村

岡村乃東ありあり吉武を波も所地なり

あしあふふの村も名のと斗よそ氏家もなむ五十

川村一層あり

○善積庄

今津村新保村弘川村大伴村三弘村

村下弘部村南生え村南生村以上八村をいふ

東鑑曰所衆中原信房者依鳥

造酒正宗房孫子殊被優賞今

日賜近江国善積庄是雖為円

勝寺領致信房所望之上為被
剛宗房四勞如此云

○今津村 木津村の北ありあり湖中より

可なりぬのむ僅り陸より行く時のも

口日修戸あり舟着して惣昌の所なり此の

所より着狭のふ小浜へ陸路五里長今寺湖上

八里解あり竹生橋一三里解あり毎口船を出

○曹澤寺 今津村ありあり洞雲山曹澤寺と

号は福曹洞宗お侍古昔新豊寺と号し大伽

藍よりて松島水年中よりと存在せり徳宗

文龜永西手中数度の兵火のつらあり

灰燼とあり第九代の位御後量倉和の地

より遷し一寺とあり政号して曹沢寺と

いふ前田氏の先祖芳春院殿の碑新より中

興乃大檀那今津乃任人小原佐清なり

○新保村 今津乃北ありあり湖邊なり

金中谷より出盤曲して少くは保坂村の東
よりとて南流を合して一涿となりて東よありて
あふれ追分村の西南を通り南生見村みぶ生村
弘部村と九折し北より東へして原家村新保村の
中里と鷹ヶ湖を入

○原家村 南新保村の少よあり

○地頭村 原家村の少あり 石田村原家村地

頭村の三村と流分といふ

○川尻村 地頭村の少あり

○辻村 石田村の少あり

○中川村 辻村乃南あり

○お作村 辻村の少あり 事ハ酒波寺さき此縁記

酒波寺の条トテ

○平ヶ渡村 お作村の少あり

○榎村 平ヶ渡村の南あり

○井口村 榎村の南あり

○岸根村

岸根村の西あり

○大床村

岸根村の西あり

○梅系村

大床村の西あり

○三谷村

梅系村の西あり

○井俣村

三谷村の西あり

○古城地

井俣村の西あり 山中丹波守秀吉居城

のありあり 秀吉六高七郎の一人あり 織田信長公

乃ありあり

近江國奥地志略卷之九十四

長 寒川 辰清 編輯

高鴻郡第三

○酒波村

井俣村の西あり

○酒波寺

酒波村あり 寺記いよく近

江乃西高鴻郡川上莊喜蓮山酒波寺者人皇四十
五代聖武天皇御宇て年中三年己年引基菩薩
乃開基よして新基自刻めり

乃徳と安立とに玉家權護の靈場なり人皇七
十代後冷泉天皇再興一たふか堀川天皇康
和三年辛巳殿形りしりて御修復ありし後
弘治二年丙辰淺井備前守長政堂塔乃荒廢を
かげに磯重丹波守として修補せしめ寺領
千八百石と歸附と磯田信長公執持乃日大講城
主磯田七多信隆寺所と押修せしむ依之御蓋
坊舎遂日頽破~~破~~と菱名の比つらよ本堂平院

同く塔形三間の~~の~~存在せり元和年中依久呂大膳
靈地たる~~の~~地を知て地所料三十石と身附と其の
後貞享元年故ありし依久呂氏断絶せしがとも
菱名心束朽換ぶる~~と~~なりし~~の~~川と在りし~~の~~
水と川と乃治と管とをいし大蛇ありて樵吏
ちや~~の~~と~~の~~と一年~~の~~たる~~の~~素蓋馬多神~~の~~
な~~の~~い~~の~~酒を~~の~~並~~の~~と蛇と~~の~~の蛇束~~の~~て酒と吞~~の~~し~~の~~
急~~の~~なり時~~の~~靈童二人忽然として來りたり

くその蛇と云る 一童子と頭角と持一童子ハ尾鈕と
持我々是観音某師乃應化なりいま切と云ふの
蛇を八波大蛇の靈鬼なりと云ふ言をとりてんく
と於け二童子と云ふるいふ此鈕菩薩角大蛇
是なり莊と川上といふと數の川上の古名
類一鈕社の邪境と酒波と祢と角師乃誌言
成小作といふの一角の群集比嶺と作て天
尊といのる乃不得なりといふ乃縁記をふとる

長一蛇を西工と云ふ長梅と云ふ川上乃涼若大蛇あ
るべし靈童なりと云ふと云ふ教人蛇を八波の
大蛇の灵鬼なりといふ説ふ審一凡邪道傳記と
明理を云ふこれハ誤ると云ふハ波の大蛇を斬る
たよりと云ふ實事なりと云ふ素盞爲尊といふ
西陰と一蛇を以て邪陰と云ふ西陰その処なり
位と云ふ邪陰と云ふなり織と云ふハ波ハ四
四謹八方此邪陰といふが云ふと云ふ吉野拾遺の勿

解ふもあるせう是を以て六波乃大蛇の靈魂六
乃地より出ざることを云ふ

○三股村 沼波村の東にありある村なり

○源清の村 三股村乃ひぐらある村なり

○桂村 源清の村の南にありある村なり

○伊勢の二所古跡宮 桂村にあり寛永六年己

己六月廿一日村民豊満西次良友を以て同
以祭りしてある

○大沼村 源清の村の北東にありある村なり

○中店村 大沼村の北東にありある村なり

○小新保村 中店村の北にあり

○百瀬川 源を挾乃玉桑栢山より出に南に

なれ處西村の西より東に流し斜に南に

折て新内村の西を経て湖に入其の川を或は沢川と

せしり川とせしむる一河なり

水は月つらなりしりせしむる

ぐらゐりてあつた

○貝津荘

知内村 森西村 辻村 石場村 牧野村

白谷村 ^{えびら} 上関田村 ^{うしろ} 下関田村 浦村 西浜村 寺久保村

堀口村 下村 山中村 生糸村 野口村 玉坂村 ^{こみち} 小荒乳村

坂下村 落合村 小谷村 上山村 田原村 茅原村 貝津

东少村 貝津中村 町村 貝津中少路町村

以上二十七村をいふ

○知内村

百瀬川乃少ある湖辺の村なり

○蛭口村 ^蛭

知内村乃少ある村なり

○知内川

上少なる関田川云下なる乳内

川といふ川をいふ一河もあらず平常ハ橋あり流を二

一と鐵筋の玉結口村の出角なる面は橋の上

関田村の面は玉結口村の一流なる一と鐵筋玉結口出角

下南なる上関田村の西なる二流一は倉

寺久保村 蛭口村の東を曆て湖邊に入

○寺久保村

蛭口村乃少あり

○東西村

知内村の西よりある村なり

○辻村

森西村の北よりあり

石場村

あるは石倉の字より流る辻村乃

小東よりあり

○牧野村

石場村の北よりあり

○新頼塚

牧野村よりあり大なる塚あり小山

乃大と一京圖纂をかんりあり新頼と流和天皇

の後胤多田乃流及次男源忠澄の男出羽出雲守左

兵衛尉大進門前千代官に康平元年四月二十七日

源頼義頼朝長治元年府の御軍となりし中向の時出羽守

より相見是より陸奥より我切あり鷹飼乃名人

妙手なり今世より新頼流と云鷹飼の傳をいれ

なり武用新畧等の事なり流と流と新頼と改新

なり唐崎大納言と云はるものなりある事と云流なり

新頼乃又忠隆と云積氏 祖より初て新頼乃

名と流と云子新頼お流と云積氏を初と知り

かろゆへにけ地は塚をさづる。なるべし。梅は
大乃塚の上は古昔を墓名もありし。なるべし。是等
を以てかんうのふは乃迄。なるべし。古昔を墓積の
名と云ける。し。時世乃沿革。なるべし。今昔積乃
莊とし。なるべし。大伴新保弘川大伴。なるべし。乃弘新南
生見蘭生等乃八村のなるべし。拾苒抄。十二郡
乃郡名を記し。その次。乃惣多。乃積の名を代
らさる。れは。大乃にして。名なるべし。地と云く。なるべし。

大乃傍り塚ニアあり。一の塚より大なる。故にこれ
あり。田島の中。なるべし。友をかり。小竹藪ありて。これ。後。養
一面。乃。統へり。古。信。大。乃。塚。を。新。形。の。一。子。也。塚。なり。し。
いふ。長。梅。なるべし。新。形。の。子。あり。嫡。子。と。名。積。名。人。
良。乃。といひ。二。男。を。良。季。と。云。三。男。を。大。房。惟。家。
いふ。云。四。男。を。景。実。と。いふ。大。乃。弟。実。なる。尚。小。梅。子。
住。し。小。梅。氏。の。祖。なる。れ。は。大。乃。地。なり。なる。べし。あ。る。べし。なる。べし。
良。乃。良。季。惟。家。此。三。子。の。内。あり。なる。べし。

○白谷村

牧野村の北にある村なり

○下関田村

寺久保村の北にある村なり

乃水尾なり

○上関田村

下関田村の西なり

○浦村

下関田村の北なり

○西渡村

下関田村の東なり

○檀の寺

西渡村の南にあり山実性院檀の

寺と号する言新義乃古化なり聖武天皇御時

創平二庚午年御建立関山初基菩薩本尊

十一面観音弘法大師乃作なり京都智積院

乃末寺なり

○下村

浦村の北なり

○山中村

下村の東なり

○左原村

山中村の北にある村なり

○貝津東町村

西渡村の東なり

海津のハ彌津乃文字なり作る御前教度なり

六乃不^りま^り七里半あり陸路を経て六の地へ着
あを山^のと^りふ^り船^を移^す大津^{より}出^る

堀川後百首 仲実録

あ^らち^の山^を登^りけ^の河^に登^りぬ^る世^は六^の川^に里^をみ^せれ^ぬら^う

○天満^て神社 貝津上尾山ありありありと

ろ^て備^て神^を友^と乃^其なり^て速^久二^年亥^年二^月
十五^日社^所十^石津^糸市^{あり}大^将軍^家光^公は^家
附^{なり}祠^{あり}友^田和^泉代^り勤^之

○貝津中村河村

○貝津中^小路^河村

○小荒乳村

○野^口村

○天^隈岡

御^所を^りよ^の女^の出^入を^あら^せむ^に上^儀より^の御^所
実^所は^て武^士と^しし^も陪^居を^下る^をな^す
通^りは^て東^海各^所影^口津^園所^の括^り似^{たり}

三上喜多清と云者はともあり建武年中
田我負小玉より赴くとて宇都宮を始として
官軍大雷雷一徳道とてなるも、郡家乃小と太
平記より之とす

○園邊村 野口村乃小ありある村なり

○小生見村 南生見村乃小ありあり

○追分村 小生見村乃西ありあり

○角川村 追分村の小ありある村あり

○保坂村 追分村乃小ありある村なり

○山中村 保坂村乃西ありある村なり

○山中関関 山中村よりあり若狭乃玉あり

寺より女とありある
口乃実取のあり

○梨木村梨木の 保坂村の小西ありある村なり

○大板村 山中村のありある村なり

○天増村あま 大板村乃小ありある村なり

○途申谷村

保坂村乃南よりあり

○榑川村

途申谷村乃西よりあり

○朽木谷

荒川野原市端より新田村宮

瀬下柏上柏古川地子京麻生長横谷大野村井

榑生以之をいふ凡朽木谷といふはあ墨川の上

よてるうさ三里むうり乃留の惣名なり出乃谷南

○水たがく東西ハ狭く朽木の杜多歌よりあり

○野原名所集

此集せし昔はあまの志のひて朽木は出乃谷とる月うけ

彩云帖

むうこれとあり初て今も朽木の杜多歌ありぬ

浮多野院集

娘はあうりてと朽木の杜よりなる麻は多そむ

宗良千首

五月あまの河をさそく言流や朽木は杜引人とも

○荒川村

野原村乃水よりあり朽木谷乃入口

ふして朽木乃東邊なり今津より六の少き所へ
三里あり

○三玄寺

葛川村ありあり曹洞宗乃禪寺あり

○朽木市場

麻生村乃東ありありてある村なり

葛川より一里半ありあり六の地朽木氏乃飛住
乃地なり町敷十町ありけりて枕木をつくる
藩元平なる盆楳をありあり京都へ出し流石へ賣極
乃實中なる名産なり車馬を去る川より哉朽木

氏名字多し里乃後高高作木氏乃庶流なり
世々お續き朽木あり四乃口あり若狭口京口高崎口大
溝口なり是より水へ引ハ若狭なり朽木より
京へ南より切十二里あり

○朽木古城証

朽木市場乃上ありあり

一ハ城なりいり朽木氏乃所なり

○朽木川

源より一ハ輪輪村ありあり出盤曲し

横谷村乃西を鷹て麻生村乃東より二流流合し

朽木市場乃水東を遶つて坊村川と合し曲り
高て野鹿山嶺乃東を應て安曇川となり湖
入一々若狭乃玉計畑嶺出東流して雲洞
谷村乃西より至て水流し麻生村乃東より至て
二流合す

○山王権現社

朽木村乃西よりあり河乃
水なり尚社と大宮乃社を朽木谷中乃産土
社なり

○與正寺

朽木市場よりあり曹洞宗信治具
西寺乃末寺なりお傳願主ふく真西寺行坂
依し六乃地より真西寺を建立すと云ふ
かゝら願主朽木氏乃菩提所なり

○普門寺

同交りあり

○野鹿村

朽木市場乃水東よりあり村あり

○若乃地

野鹿坂乃上嶺ありあり室町

家初産乃と記細川晴元来りて改む朽木

氏六乃地り岩一七路我乃地り

○野鹿坂

朽木氏^朝の東の園なり六乃

坂乃とを^嶺鹿^嶺と云

○宮前村

坊村乃東南りあり。村なり大宮社

乃宮前りあり。村乃名なり

○朽木大宮権現社

宮前村りあり。祭礼毎

年四月初乃年此日祭。兩日吉天宮権現なり。尚

社と山王社二社を以朽木谷中此産土社と云

○岩神村

朽木宮場乃南りあり

○周林院

岩神村りあり。曹洞宗朽木河内寺

乃村創なり。作木系極盛乃女秀吉公乃例室

松乃丸^松の妹朽木氏り嫁。辛洋周林院之^證

古高寺り葬る寺なり。周林院と号するなり

乃あり。飯山泉水あり。後高良院亨^証元平乃

軍足利義晴三好り乱を避て京を出家り。朽

木乃^証なり。朽木氏於少傳植額分許り。任飛

五年を経て文元年陽系あり其の古ハ峯崎
乃飛徑したる不尾なり一熊山々即峯崎なる
築めれしといふ相ありて今め^{元本}の^跡は^其乃製
形なり

○坊村

岩津村乃西ありてあり村なり

○坊村川

源とニツ一々山城乃木村三山

山よりおくれ坂下村を應てホノ江村の来水と
遠く^遠曲りして申村坊村を過き小川乃来流也

合一古川村乃来りてを以て杉木川と合一安
曇川となり湖水より入

○穴ヶ瀬村

岩津村乃南ありあり

○下柏村

坊村乃南ありあり

○上柏村

下柏村乃南ありあり

○古川村

上柏村乃西ありあり

○大野村

上柏村の南ありありてあり村なり

○村井村

大野村乃南ありあり

○朽生村

村井村乃南ありあり

○麻生村

標川村乃南ありあり

○地子系村

穴ヶ瀬村の西南ありあり

○雲洞谷村

大野村井乃西ありあり

○長尾村

宮前村乃東ありあり

○阿弥陀山

大乃山ありあり

虎沢危等なりありの山を阿弥陀山と号する

古昔大の山上ありあり寺ありあり阿弥陀山大山寺と号す

高嶺七ヶ寺のせ一として比叡山延暦寺此未

寺なりありあり信長公乃ありあり集土とありあり

り山乃名のなる

○中野村

長尾村乃東ありあり

寺村ありあり

○大山寺

中野村ありあり

大山寺ありあり織田信長公乃ありあり

りつりよそ田記として聖徳太子乃小堂一字を

○古屋村

平良村乃西ありあり

○小林中牧村

古屋村乃西ありあり

○小入谷村

小林中牧村乃西ありあり

○庄屋村

小林中牧村乃南ありあり

○生枝村

庄屋村乃南西ありあり

○素原村

生枝村乃南西ありあり

○能家村

雲洞谷村乃南西ありあり

ある村なり

○横谷村

麻生村乃南ありありてある村也

○藤籠村

横谷村乃西ありありてある村なり



○藤原村

○藤原村

○藤原村

○藤原村

○藤原村



藤原村の西の山あり

古元村の西の山あり

山崎村の西の山あり

山崎村の西の山あり

山崎村の西の山あり

○藤原村

○藤原村

○藤原村

藤原村の西の山あり

藤原村の西の山あり

